

あさ

カコイシン

朝焼け、

私は落選した。

選ばれなかったことよりも

(あいつが選ばれた) 限りなく冷たい驚き。

(人 人は白い息を吐き、)

しかし

私は体を燃やす

胃の腑はきらきらと痛みながら

宝石になっていく

(このミジメさが不可欠だった) という (いった) ために

経験世界のどこかで光らせる悲しみ

それもじきに落下してしまう。

この身もろとも

落陽。

私はその影を食べる